

令和3年度第4回 きよみ野地区地域支え合い会議 議事録

日 時：令和4年3月15日（火）
午後1時30分から午後3時30分
場 所：老人福祉センター

〈参加者〉

きよみ野西自治会辻田会長、きよみ野東自治会妹尾副会長
きよみ野西自治会地域支援役職 田村氏
きよみ野西地区：伊勢谷民生委員
きよみ野東地区：竹林民生員・成田民生員
長寿支援課：豊田、金澤、野口
生活支援コーディネーター：浦上
第一地域包括支援センター：石岡・大友
社会福祉協議会：日高・谷口
埼玉県総合支援チーム：さわやか福祉財団岡野氏
地域包括ケア課原田氏・吉野氏

計17名

1 開 会

2 前回の振り返り

3 「助け合いの大切さについて」の説明 ※別紙資料参照

公益財団法人さわやか福祉財団 岡野氏

1) なぜ助け合いが必要なのか

助け合いが必要となる時代の背景

2025年以降、高齢化の割合は平行線となり変わらないが若年層の担い手が減少する。若手が高齢者を支える概念は通じなくなる。できる人ができる範囲でできることを活かしてみんなで支え合う考えが求められる。

2) 他市町村事例（フォーラム→勉強会→協議体→活動創出の流れ等）

4 質疑応答

1) 自治会の衰退が課題となる中で、地域コミュニティーの必要性を知ってもらうためにはどうしたらいいのか。

⇒現在のライフスタイルと自治会の活動（毎年の引継ぎ事項、行事をこなすことに追われてしまう）が合わなくなっていることが大きな要因となっている。役員が通年を行わなくてはならないことに若年層、働き世代の協力が困難となる。京都府の若葉台自治会では、特別委員会を設けてできる役

割を担ってもらえるように二重組織の取り組みを始めた。様々な形で参加ができるように、自治会参加のハードルを下げたツールをたくさん作るなど新しい工夫で加入率を増やしている事例がある。

- 2) 若者世代の参加を取り込むためにはどのような仕掛けが必要であるか。
⇒学生世代を巻き込む方法として、学校の教員へ依頼することがいいのでは学校教育の中でも、地域交流の必要性は感じているが、実際に何をしたらいいのか考えているケースが多く見られる。具体的に何をしてほしいか依頼することが重要。
例) オンライン交流会、通学路でのごみ捨て協力、催し物（音楽）への参加等
- 3) 地域課題を広く吸い上げ、さらに課題を地域の住民に周知する方法は。
⇒他人から提示された課題を、問題として捉えるのは困難。自身が課題を書き出すことが重要。我がごとの事例から、ワーキングすることにつながりがないことに気づくことが出来る。洗い出しだけでなく、課題を解決するために動き出す人が出てくる。
- 4) 高齢者同士での助け合いというイメージが強いが他機関との連携はあるか。
⇒青年会や商工会などとの連携を図る例は多くある。買い物支援などから、商店街への協力を依頼する中で助けられた人も、清掃や庭木の伐採などでお互いさまの活動を見つけることが大切。
※普段からの交流（つながり）が重要となる。顔見知りの関係だからこそちよっとした手助けをし合えることができる。
- 5) 必要に迫られサロンを立ち上げたが、何かしたいと思ってもきっかけがない。やりたいことを参加者と見つけながら続けていきたい。
⇒主催者のお世話型サロンでは長続きすることは難しい。参加者と考えながら作り上げていくサロンが長続きするのではないか。
少しずつそれぞれが役割を担いながら、得意分野を活かしていく。

5 議題「きよみ野地区の課題を深掘りするための協力メンバーについて考える」

きよみ野東自治会

- ・フォーラムにするのか、関係団体での話し合いを行うか検討が必要。
- ・多世代（子供から高齢者）多様性（施設、商店）などが想定されるが、どの団体、どの人がよいのか。
- ・きよみ野地区という大きな規模だからこそ無作為抽出も方法の一つではないか。

きよみ野西自治会

- ・支え合い会議の当初は、フォーラムがテーマとなっていたが回を重ねることで参加者同士（自治会、民生委員）の役割に気づくことができた。

・深堀するためのメンバーは、現メンバーの人脈では対象が狭いのではないか。
⇒辻田会長より提案いただいたドイツの手法「プラーヌクスツェレ」では住民基本台帳から無作為抽出された人で議論を行う。ゼロベースの発想でグループワークを行うことで予想しない回答が得られる。既存団体でのつながりでは、固執されてしまうのではないか。

コミュニティーデザインの概念など新しい分野での学びを深める必要がある。

・自治会を通して「寺子屋委員会」が地域支援に興味を示しているが、コロナ化で活動ができず、子供会の運営を手伝いたいと申し出があった。関係構築を図ったが、日頃から組織間でのつながりがないため話が止まってしまった。既存の活動団体同士でつながりを持つ場が必要と感じている。

6 次回の開催 6月16日(木) 午後2時から午後3時
老人福祉センター 多目的室